



37

## 思いやりの心を育み 自然を大切に育てる子ども達

鮎川小学校

鮎川小学校がある鮎川地区は、牡鹿半島の先端部に位置し、古くから捕鯨の町として栄えてきた地域です。また、周囲を美しい海や金華山、網地島などの島々に囲まれ、豊かな自然と文化が残る地域でもあります。昭和34（1959）年には900人を超えていた児童数は、現在、57人にまで減少しています。

鮎川小学校が目指す学校像は「一人ひとりのよさを伸ばし、思いやりと活力に満ちた学校」です。特色あるさまざまな活動の中からこの一部を紹介いたします。

鮎川小学校では、お年寄りとの交流に力を入れています。毎年、近隣の特別養護老人ホーム「おしか清心苑」との七夕交流会を開催したり、網地島の網小医院に入院しているお年寄りとゲームや会話を通じて交流の輪を広げています。さらに学校の



▲七夕交流会



▲カヌー体験

祖父母参観では、おじいさんやおばあさんにあそび喜んでもらうような集會を企画し、ダンスや歌、しおりなどをプレゼントして、お年寄りと触れ合う活動を通して、思いやりの心を育てています。

そのほかにも、毎年、十八成浜や網地島の海水浴場のクリーン活動を実施し、地域の環境美化運動にも力を入れ、奉仕の精神を培っています。これは地区にある海や海岸など多くの自然をいつまでも美しく残していきたいと、ご子ごも達の気持ちが表れたものです。

また、毎年網地島にある「島の楽校」を利用して、二泊三日の自然体験および社会体験の学習を実施しています。カヌー体験やお年寄りとの交流会など、学校では経験できないさまざまな活動を実施しています。

このように鮎川小学校では、さまざまな活動を通して、思いやりの心と地域の自然を大切に育てる子ども達を育てています。

## にぎやか家族 46

雄勝町桑浜



写真左から、さくらちゃん、海生くん、ちはるちゃん

### 《将来の夢》

- 永 沼 さくらちゃん（6歳） お絵かきが大好きなので漫画家  
 かい せい 海生くん（3歳） ゲキレンジャーのスーパーゲキレド  
 ちはるちゃん（2歳） ラーメン屋さんとガム屋さん

<両親から>  
元気でいい子に育てたい

### 今月の表紙から

太陽のような明るいイメージのガーベラは、南アフリカが原産のキク科の花です。豊富な花色と花の大きさがさまざまなのが魅力で、フラワーアレンジや結婚式のブーケとしても人気が高い花です。

今回は、桃生地区でガーベラを栽培している和泉さん取材しました。

桃生地区のガーベラ栽培は、平成6年から和泉さんを含め6軒の農家が協力して、栽培から販売ルートの確保まで行っています。現在は、11棟の栽培施設に約70種が栽培され、主に東京や仙台市場に年間約400万本を出荷し、東北一の産地となっています。

和泉さんはガーベラ栽培は、植え替え作業で順調に定植させること日々の管理、そして、花色など流行があるため品種の選定に気を使います。野菜などと違って完成品の出荷なので、自分の育てた花そのものがお客様に届けられるということがとてもやりがいがあり、毎日、花に囲まれて仕事ができることに感謝し

ていますと話していました。

和泉さんに夏のガーベラを少しでも長持ちさせる方法を教えてもらいました。

- ①花瓶の水に、漂白剤を数滴入れましょう
- ②花瓶の水は少しだけ
- ③ガーベラには冷房の直風を当てないこと
- ④できれば毎日水替え&茎の切り戻しをしましょう



和泉 清明さん(桃生町倉坪地区)

# サークル仲間

なかま  
④④

## 戴冠奪還へ向け視界良好！

石巻信用金庫ミニ孫兵衛船チーム

今月は、石巻最大のイベント「川開き祭り」が開催されるということで、10年以上にわたり水上競技の「華」ミニ孫兵衛船競漕に出場している、石巻信用金庫チームをご紹介します。

長い歴史を持つ孫兵衛船競漕の女性版として、平成5年から競技が始まったミニ孫兵衛船競漕は、1チーム8人編成で住吉公園前の北上川を舞台に、今年も10チームがエントリーし、熱き女の戦いを繰り広げようとしています。



▲昨年準優勝の信金 A チーム

そんなミニ孫兵衛船競漕の歴史で、過去5回の優勝経験をもつ石巻信用金庫チームは、初出場の平成7年から回を重ねて今年で14回目(平成15

年)は中止の出場となり、4連覇を目指した昨年は、創業80周年を迎えたこともあり、2チームで出場し、惜しくも僅差で4連覇の偉業は成りませんでした。だが、それでも準優勝と5位という好成績を残しました。



▲昨年の熱戦から(手前が信金 B チーム)

毎回好成績を残す強さの秘訣は、選手に学生時代からの経験者がいること、仕事が終わった後、2時間程度行うトレーニングにあります。今年は、1チームでの参加ですが、監督に昨年の準優勝チームの選手を迎え、昨年のリベンジを果たすべく優勝を狙います。

選手個々の体力や舵取りなどの技術も申し分なく、戴冠奪還へ向け視界は良好といったところですが、当日の天候や潮流の流れ、コース取りといった実力以外の占める部分も勝敗を大きく左右します。

今年は土日の開催でもあり、平日開催ではなかなか組織できない仲間の大応援団も後押しして、そんなわずかな不安をかき消してくれることでしょう。

## 長寿のひけつ



③⑥

河北地区で2人の方が

6月に100歳を迎えました！



千葉はつのさん  
(河北地区成田)



赤間あやめさん  
(河北地区飯野)

千葉さんは、明治42(1909)年、飯野川町成田で9人兄弟の長女として生まれ、尋常高等小学校を卒業後、郵便局の交換手や東京の紡績工場に行つて働いていました。

その後、地元の飯野川に戻り、近所の千葉保助さんと結婚し、1男3女の子どもに恵まれました。

今でも、足腰が丈夫なのが自慢で、90歳のときには、地域の「歩け歩け大会」に参加しました。また、自分で針の糸通しができる着やぶきんを手縫いしています。

「長生きの秘訣は？」と尋ねてみると「縫い物などをやって、よく手を動かしていればいいんだよ」と応えてくれました。

今回取材したお二人に共通していた長寿の秘訣は、「よく体を動かすこと」、「好き嫌いなく食べること」のようです。

赤間さんは、明治42(1909)年、桃生町寺崎で7人兄弟の3番目として生まれ、尋常高等小学校を卒業後、実家の農業や和裁を行っていました。

その後、赤間静さんと結婚し、2男2女の子どもに恵まれました。

65歳のころ、右目が白内障になり、不自由になりましたが、畑仕事や草取りは続けていたそうです。

今でも、長年の感覚でお風呂やトイレは自分で行きます。

「長生きの秘訣は？」と尋ねてみると「アロエを皮ごと食べ、どくだみ茶を飲んでいただく」と応えてくれました。

